

1 個人課題

相手に自分の思いを伝えたり、相手が話す内容に辛抱強く耳を傾け受け止めたりしようとする子の育成
～学級生活場面や学習場面における具体の手立ての探究～

2 単元名

- ◆ 1年 11 たしざん
- ◆ 6年 10 速さ 速さの表し方を考えよう

3 単元について

(1) 児童について

1年生児童と6年生児童の本単元に至るまでの学習は以下である。

◆ 1年

4単元「あわせていくつ ふえるといくつ」

加法における数の構成の理解を進め、計算カードを用いた計算練習により、正しい答えを言えるようになってきている。

6単元「10よりおおきいかず」

10のまとまりと10に満たない端数がいくつととらえる活動を繰り返し、十進位取り記数法の理解を進めてきた。「10といくつ」という数の構成の理解により20までの加法・減法を身につけてきている。

9単元「3つのかずのけいさん」

3口の数についても加減の計算ができることを理解し、それを通して10のまとまりを作って計算することが数の処理に便利であることに触れている。

これまでの指導の重点は以下の2点である。

- ①半具体物(ブロック, 百玉そろばん)を用いて数と具体を一致させ、数の意識を身につけること。
- ②数に触れる機会を多く設け、数の合成や分解について抵抗感をなくすこと。

◆ 6年

5年生7単元(新教科書では、5年生10単元)「単位量あたりの大きさ」

うさぎ小屋の混み具合を調べるときに1㎡あたりのうさぎの数や1匹あたりの面積を求めて比べる方法を経験し、単位量を1とすると比べやすくなることを感じ取っている。特に1㎡あたりの数で表すと、数が大きいほど混んでいるということが分かりやすいことを学習してきた。

(2) 単元について

◆ 1年：繰り上がりのある加法計算

具体的場面や事柄から加法が用いられる場合や加法の理解をする。本単元では和が10より大きい数になる加法について学習する。半具体物を使った操作の際、被加数と加数の大小に着目し、大きい数はそのままにし小さい数に着目し、大きい数にいくつか加えて「10のまとまり」をつくり「10といくつ」と考える。「10といくつ」の理解により、第6単元で学習した内容となり答えを導き出せる。

◆ 6年：速さ

第5学年で学習した「単位量あたりの大きさ」を今一度復習し、うさぎ小屋の混み具合は1㎡当たりの数で表すと数が大きいほど混んでいることを思い出す。

速さについては1秒(分, 時間)あたりに進んだ距離で比較できることを理解し、日常生活の様々な場面で使われていることに気づけるようにする。速さを求める公式の学習後は「道のり」と「時間」を求める学習をし、数直線や「速さ」「道のり」「時間」の言葉を用いた簡単な図により理解を図る。

以下に指導計画を示す。

	1年 たしざん 8時間	6年 速さ 8時間
1	・ $9 + 4$ の計算で、加数4を分解して計算する方法を理解する。	・ うさぎ小屋の混み具合を 1 m^2 当たりの大きさで比べたことを確認する。 ・ 距離と時間のどちらかが同じ場合の速さの比べ方を既習内容をもとに確認する。
2	・ $9 + 3$ の計算で、加数3を分解して計算する方法を理解する。	・ 距離と時間のどちらも異なる場合の速さの比べ方について、速さは単位量当たりの大きさの考えを用いて表せることを理解する。
3	・ $8 + 3$ の計算で、加数3を分解して計算する方法を理解する。	・ 速さを変えて歩く時間や走る時間を測定する活動を通して、速さの表し方への興味を広げる。
4	・ 被加数が8と9の場合の計算について練習し習熟を図る。	・ 速さを求める公式を理解し、それを適用して速さを求めることができる。 【本時】
5	・ $7 + 4$ の計算で、加数4を分解して計算する方法を理解する。 【本時】	・ 時速、分速、秒速の意味を理解する。
6	・ $3 + 9$ の計算で、被加数3を分解して計算する方法を理解する。	・ 道のりを求める公式を理解し、それを適用して道のりを求めることができる。
7	・ $4 + 8$ の計算で、被加数4を分解して計算する方法を理解する。	・ 速さと道のりから時間を求める方法について理解する。
8	・ 被加数が加数より小さい計算について練習し習熟を図る。	・ 時間を分数で表して、速さの問題を解決する。

4 本時の指導

(1) 目標

- ◆ 1年 被加数が7の場合の計算は、被加数との和が10になるように加数を分解し、「10といくつ」の形にして計算すると解決が図れることを理解する。(5/8)
- ◆ 6年 速さを求める公式を理解し、それを適用して速さを求めることができる。(4/8)

(2) 児童について

児童	実態	目標
A 1年	・ 1から20までの具体の数と数字を把握できる。 ・ 10までの繰り上がりのないたし算やひき算は多少の時間はかかりつつも念頭処理することができる。 ・ 10の構成・分解の理解については、現在練習中である。	・ カード提示による計算が正確にできる。 ・ 「何と何で10」「10は何と何」を、毎日の練習で身につける。 ・ ブロック操作を手順に沿って進め、それを言葉の説明につなげていく。
B 6年	・ たし算、ひき算、かけ算はある程度自信がある。 ・ わり算については、その都度やり方を思い出すことにより解決することができる。 ・ 数直線の見方や各種公式などは、一度原則を身に付けることにより理解を進め、使うことができるようになる。	・ 小数のわり算の形ではなく、整数同士のわり算により、速さ等の求め方を把握する。 ・ 解き方の原則を常に思い出し、原則に立ち返っての理解を進める。

(3) 個人課題や共通課題とのかかわり

★伝える・受け取る(個人)

- ・ あきらめないで伝えることやはっきり話すことなど、考えを伝えたことを見逃さずほめる。
- ・ 分かったことを使って同様の問題が解けたことを認める。
- ・ 分かったことを自分の言葉で簡単に話すことで学習内容の理解に近づいたことを認める。

☆意欲の喚起(視点1:共通)

学習の流れを知り見通しをもって学習に向かう姿勢をつくる。そのために、導入段階で1時間の学習内容と共に学習の流れを示す。

☆学び合い(視点2:共通)

子どもと教師とのやりとりを通して学びの面白さにふれる。また、自分の考えをもてたという気持ちや同様の問題を解決できた達成感をもたせる。

(4)展開

段階	学習活動	指導の手だて	
導入 8分	<p>1 たし算カードを使った計算練習で算数の学習への切り替えを図る。</p> <p>2 本時の学習内容を知る 7 + 4の計算の仕方を身に付けよう</p>	<p>○学習への雰囲気作りをする。</p> <p>○1年生, 6年生共にたしざんカードで算数へ向かう気持ちをつくる。</p> <p>☆視点1 1時間の見通しと, 流れを知らせる。</p>	
展開 32分	<p>3 個人の学習をする</p> <p>(1)練習問題に取り組む ①9 + 2 ⑨8 + 4 ②9 + 6 ⑩8 + 6 ③9 + 8 ⑪8 + 7 ④9 + 5 ⑫8 + 5 ⑤9 + 7 ⑬8 + 3 ⑥9 + 3 ⑭8 + 8 ⑦9 + 9 ⑧9 + 4</p>	<p>3 速さの求め方を考える</p> <p>(1)1時間あたりを求めて比べることを知る</p> <p>(2)数直線を用いて式を考える はやて $\square \times 3 = 640$ $\square = 640 \div 3$ のぞみ $\square \times 2 = 480$ $\square = 480 \div 2$ 答え 時間あたりに進む道のは, はやて号が210km, のぞみ号は240kmなので, のぞみ号の方が速い</p> <p><u>1時間あたりに進む道のり</u> ↓ = 道のり ÷ 時間 速さ</p>	<p>★何と何を比べるのか, 比べ方の見通しをもつ。</p> <p>○数直線を提示し, 基本としての使い方を確かめ, 思い出させる。</p> <p>☆視点2 数直線を用いた考え方を思い出し, 数値を当てはめて考える。</p> <p>○筆算により答えを求め, 考えの足跡を残す。</p> <p>■1時間あたりに進む道のりの求め方をふりかえって話す。 ・用語の使用 ・時間で割ることの意味</p>
	<p>4 7 + 4の計算の仕方を考える</p> <p>(1)これまでの学習を思い出し, 4を分解して考える ①ブロックを操作する ②図を用いる ③ブロックと言葉, 図と言葉を結び付けて整理する</p> <p>(2)計算の仕方をまとめる ◇7は, あと3で10 ◇4を3と1にわけ ◇7に3をたして10 ◇10と1で11</p> <p>(3)7 + 5の計算をする</p>	<p>4 個人の学習をする</p> <p>(1)速さを求める適用問題 ①2時間で192km走る特急列車の時速 ②3時間で162km泳ぎ続けるマグロの時速 ③400kmの距離を16時間で進む台風の時速</p> <p>(2)速さの整理をする問題 ①時速60kmとは, 1時間に \square kmの道のりを進むことです。 ②時速60kmのとき, 30分では何km進むことができますか。 ③10分では何km進むことができますか。</p>	<p>○今までのたし算とのちがいに気づかせる。</p> <p>○「9と□で10」「8と□で10」に触れる。</p> <p>☆視点2 8 + □, 9 + □の時の計算の仕方をブロックを操作して説明する。</p> <p>★7 + 4の時には, どうすれば良いか予想を立てる。</p> <p>○「10といくつ」にすると考えやすいことに触れる。</p> <p>■計算の仕方を順序に沿って話したり示したりする。</p>
終末 5分	<p>5 本時, がんばったことや楽しかったことを発表する</p> <p>6 次の時間は, 本時の学習の続きを行うことを確認する 1年:「3 + 9」の計算の仕方を考える 6年:時速, 分速, 秒速の表し方を知る</p>	<p>○互いの発表に耳を傾け, 拍手を送る。</p> <p>■自分の学習の成果や一緒に学習している子の努力に触れて話す。</p> <p>○式を見て今日の学習との違いに気づいたり, 「分速」「秒速」という言葉から意味を予想したりする。</p>	

★個人課題にかかわって ☆共通課題にかかわって ■評価 ○指導の手立て(留意点)

〈自己課題〉

相手に自分の思いを伝えたり、相手が話す内容に辛抱強く耳を傾け受け止めたりしようとする子の育成
～学級生活場面や学習場面における具体の手立ての探究～

〈児童の実態〉

1年生

- ・自分の言葉がなかなか相手に伝わらなくともあきらめずに伝えようとする姿がある。
- ・自分で発する音声言語の音量が不足していたり、言葉一つ一つがはっきりしないために思いを伝えきれない場面が多い。
- ・「はっきり伝えよう」とするあまり緊張のしすぎや言葉不足で自然な話し方できずに言葉が出づらくなることも目立つ。

6年生

- ・身の回りの動植物に対する興味があり、朝の会における「今日のニュース」や帰りの会における「今日の発見」では、しばしば話題にして話すことができる。また、発表した内容にかかわって質問をすると付け加えて話す姿もある。
- ・興味の低下や、その時の気持ちのありようで聞き方にむらがあることもあり、内容理解に物足りなさが見られる。
- ・語彙不足という面もあり、話を聞いても「よくわからない」という表情や、実際に「わかりません」と答えることも多い。

〈課題解決がなされたときの姿〉

- ・音声言語だけに頼らず、身振り・手振りや意図する物を指し示す方法、五十音表の活用などの伝達の仕方を知り、相手とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・特に平仮名や片仮名を身に付けることを通して、書いて伝えることができる。
- ・相手の表情や目を見て話を聞き、音声言語以外の手段で相手の考えに思いを巡らすことができる。
- ・安易に「分からない」と言わずに分かる努力をしようとする。

〈具体的な課題解決策〉

- ・朝の会、帰りの会などで話す機会、聞く機会を設け、「相手の話の内容を分かる」という経験を繰り返し踏ませる。
- ・学習場面においては、一文で一つのことを伝える。そして、複数の文のつながりによって話の全体像を表現する。
- ・相手の表情や口元を見て話を理解する。
- ・音声言語に頼りすぎない伝達手段を模索し、効果のありそうな手段を試し伝達手段を豊富にする。
- ・学習の雰囲気をややかにしたり、追い込んで問うことをしたりしないで、緊張感を低くさせて話したり聞いたりする。
- ・どんなことでも「よさ」を認め、ほめる。小さな自信の積み重ねを図る。
- ・小さな「伸び」を認め、長い目で見る。ある程度の期間で伸びの様子を把握しお互いに共有する。